

令和5年度第3回新居浜市地域包括支援センター運営協議会 議事録

- 1 開催日時 令和6年2月14日(水) 14:00～15:30
- 2 開催場所 新居浜市5階 大会議室
- 3 出席者
委員：石橋委員、井手委員、岸委員、鴻池委員、佐々木委員、白石(亨)委員、曾我部委員、高橋委員、久石委員、宮内委員、山本委員、吉田委員(12名)
事務局：福祉部長：古川
介護福祉課：宇野
地域包括支援センター：所長・阿部、副所長・矢野、副所長・岡部、主任・野口、保健師・野中、保健師・近藤、第1層コーディネーター・辰巳
- 4 会議内容
 - (1) 地域支援事業の進捗について
 - (2) 令和6年度予算について
 - (3) 新居浜市健康づくり推進本部フレイルグループの取組について
 - (4) その他
- 5 傍聴者 1人
- 6 議事録

事務局	<p>定刻となりましたので、ただいまから、令和5年度第3回新居浜市地域包括支援センター運営協議会を開催いたします。委員の皆様には、お忙しい中ご出席いただき厚くお礼申し上げます。皆様には、令和5年12月1日から令和8年11月30日までの3年間、新居浜市地域密着型サービス運営委員会及び新居浜市地域包括支援センター運営協議会の委員として、高齢者等が住み慣れた地域で安心して暮らしていけるように医療、介護、介護予防、住まい及び生活支援が包括的に提供できるような地域ネットワークづくりのためにご協力願いたいと存じます。なお、委嘱状につきましては時間の都合上あらかじめ席上に配布しておりますのでご了承のほどお願い申し上げます。任期満了後、初めての会議ですので、委員の皆様には石橋委員から順番に自己紹介をお願いいたします。</p> <p>(自己紹介)</p> <p>ありがとうございました。次に、事務局より自己紹介いたします。</p> <p>(自己紹介)</p> <p>本日の会議の出欠状況ですが、団体名知元委員、団体名白石亘委員が都合により欠席されています。委員数14名に対し、出席委員12名で、新居浜市地域包括支援センター運営協議会設置要綱(以下「設置要綱」という。)第6条第2項の会議の成立要件であります過半数以上の出席を満たしておりますことをご報告いたしま</p>
-----	--

	<p>す。</p> <p>それでは、任期満了後の最初の会議となりますことから、設置要綱第5条により、改めて、会長及び副会長を互選することとなります。互選方法について、何かご意見ございませんか。</p>
委 員	事務局一任
事務局	事務局一任の提案がありましたので、事務局より提案させていただきます。会長には、新居浜市医師会 知元委員、副会長には、新居浜市社会福祉協議会 白石委員にお願いしたいと存じますが、いかがでしょうか。
委 員	異議なし
事務局	ありがとうございます。皆様方のご賛同をいただきまして、会長に知元委員、副会長に白石委員が選出されました。それから、地域包括支援センター運営協議会と地域密着型サービス運営委員会は兼ねておりますので、そちらについてもあわせて会長と副会長に選出されましたのでご了承願います。
事務局	本来であれば、会長及び副会長が欠席されていますので、事務局の方で議事を進めさせていただきます。
委 員	よろしいですか。ここに来られている委員は会長・副会長に異議はないのですが、当のお2人は了解しているのでしょうか。
事務局	内諾いただいております。
委 員	そのことの確認が重要だと思います。
事務局	<p>それでは、本日の議題は、お手元の会次第のとおりでございます。</p> <p>協議題（1）「地域支援事業等の進捗について」（2）「令和6年度予算について」（3）「新居浜市健康づくり推進本部フレイルグループの取組について」（4）「その他」となっております。議事が円滑に進行できますよう、委員の皆様のご協力をお願いいたします。委員の皆様のご忌憚のないご意見をお願いいたします。</p> <p>最初に協議題（1）「地域支援事業等の進捗について」事務局より説明をお願いします。</p>
事務局	《協議題（1）について説明》
会 長	ただいま、事務局より「地域支援事業等の進捗について」説明いただきましたが、

	委員の方からご意見・ご質問はございませんか。
委員	2つお聞きしたいと思います。2 包括的支援事業の（2）権利擁護事業の説明に、成年後見制度市長申立てについて情報共有とあるが、包括支援センターと相手はどこが情報共有しているのか教えてもらえますか。
事務局	地域包括支援センターと介護福祉課、社会福祉協議会になります。
委員	それは中核機関の組織という風な捉え方なのか、あるいは権利擁護に携わる何らかのネットワークでという風なものなのか、対象となっている所の選別の振り分けがよくわからないのですが教えていただけますか。というのが、新居浜市でも中核機関があるのですが、それであれば社会福祉協議会と新居浜市地域包括支援センター、介護福祉課、地域福祉課とえひめ権利擁護センターが中核機関になっているので、新居浜市と社会福祉協議会の情報共有がなされた時に、えひめ権利擁護センターは蚊帳の外なのか、それとは別に共有をただけなのか、そのあたりどのように対象者を絞ったのか少し気になったので。
事務局	えひめ権利擁護センターを蚊帳の外にしたつもりはないのですが、申し訳ありません。以前からこういう会が継続して行われておりましたのでその延長線上と言う事ですので、今後検討させていただきます。
委員	是非、声を掛けてもらえたらと思います。 もう一点、（5）在宅医療・介護連携推進事業の所で冊子を1500部も作成されたとの事ですが、作った事自体は否定しませんしいい事だなと思いますが、本当にいい事がどうか気になっています。というのは、今のご時世何か情報を得たいと思ったら人はインターネットで調べる事が多いですよ。あるいは誰か人に聞く事が多いと思うのです。ましてや専門職、多職種、職種を持っている人たちのネットワークの中で果たしてこの本を手にしてまで何かを調べる事があるのかどうかと考えると、このような冊子というのはこれからそれほど必要にならないのではないかなと思ったりします。作った事自体は否定しませんので、これをそれぞれの職種で活用してもらえたらと思いますが、次回を考えた時に果たしてこういう風な物（印刷物）がいるのかなといった時代になっていると思いますので少し気になりました。 あと、冊子の22頁の〈在宅医療・介護略語集〉のPSW、精神保健福祉士ですが今はPSWとは言わないですよ。メディカルヘルスソーシャルワーカー、略してMHSWという風になりますので、次回冊子が作られるかどうかは分かりませんが、今はMHSWというような名称になっていますのでお願いします。
事務局	ご意見ありがとうございました。

事務局	<p>この冊子を作成する為に協議した事が、ものすごく意味があったと思うのです。それぞれの専門職が、いろんな専門職の何が困っているかを知っている事の意味合いがものすごく重要だったと思うのです。確かにインターネットの時代ですけど、新居浜市内の関係者ですからその人たちが共通で、この職種の人たちは何に困っているのか、そういった事をお互いが知る事によって、円滑に回るのではないかという事が一番の目的だったと思います。私は、インターネットが弱い世代なので、まだ紙の部分も必要ではないかなと思っております。</p>
委員	<p>冊子がある事自体は悪い事ではないと思うので。今は過渡期かもしれないですね。</p>
委員	<p>それでは二点だけ、2ページの生活機能評価について健康で過ごすための取り組みでJAXAまで取り上げられたという明るいニュースもあると伺いました。今年度は特に機能評価という事に力を入れると前回の会の時にもおっしゃっていたと思うのですが、その中でこの21.5%がフレイルに該当するという、これはいわゆる身体的フレイル、精神的フレイル、社会的フレイル、これは重なっている物もあると思います、どのあたりが多くてこんな風に1/5以上の方がフレイル対象になっているのかなと思って。延べ件数なのか、実件数なのかという辺り。それからもう一点、低栄養リスクがある者については支援を開始しているとありますけれど、低栄養リスクに関して前回の時もお話しましたが、高齢者の栄養に関わるデータはほとんど健診で出されていない、特に後期高齢者は貧血検査も有料ですし、まして血清アルブミン値などは全く測られていない。で、評価が出来るという事はどういう事かなという事で、どんな風にして評価されたのかなという事が少し気になりました。血清アルブミン値というのは筋肉をしっかり作る上でもとても大事なのですが、運動でセラバンドを使っていくら動こうとしても、栄養不足とかそういった事があればなかなか目標に到達できない、サルコペニアっていう状態ですね。そういった事もあるので、この評価の所はモデル的には是非前進できるといいなと思ったものですから、ちょっとおたずねしたいと思いました。</p>
事務局	<p>ご質問いただきありがとうございます。フレイルについてなんですけれども、108拠点ある分の23拠点分のデータになるので、フレイルに該当は今のところ21.5%ですけれども、データが揃ってくるともう少し前後はしていくと思います。フレイルの出し方なのですが、介護保険領域で「基本チェックリスト」をよく使われていると思うのですが、その25項目ある内の8項目以上に該当する人をフレイルと相関関係があるという風に考えられておまして、私たちもこの8項目以上に該当した人をフレイルという風にさせていただいて、その数が21.5%だったと考えております。各リスクですけれども、これも「基本チェックリスト」で見て行きますと、運動リスク有りの方が25.2%、低栄養リスクの方が1.5%、口腔リスクの方も21.3%、閉じこもりリスクは拠点に通われている方なので低くて2.2%、認知機能のリスクは自分であると思うか主観的な評価になるのですが39.0%と一番多か</p>

事務局	<p>ったです。あと、うつ気分の評価の所が33.3%といった結果になりました。低栄養リスク自体は1.5%と低いのですが、高齢期の低栄養を見逃す事は出来ないという事で、まずは一体的実施事業の方でも取り組んでいる低栄養の所からフォローを始めております。先程、ご指摘もあったのですが、ここで低栄養として挙げさせてもらっているのが、BMIが18.5未満の方、かつ6か月間で2～3kgの体重減少があった方、この方を対象者として挙げさせていただいているのと、体重2～3kgの減少はないのだけれどもBMIが18.5未満かつ身体機能・運動機能的にもフレイルに該当している方、あともう一つは栄養リスクにも該当しなかったのだけれども17.5未満の方、この3者に絞って支援を開始させていただいております。支援を行うにあたってはKDBシステム、健診とかを受けられている方なんかは健診のデータがあって、医療情報が見られるのですけれども、先程ご指摘をいただきました血清アルブミン値とかはなかなか貧血のデータ等は得られにくいのですけれども、一応医療情報を確認しながら何とか効果的に支援が出来ればなという風に考え支援にあたらせてもらっているのですけど、介入前後の数値が追えないのでなかなか介入した結果どうなったのかっていうのは分からないのですけれども、これも聞き取りとか個別の介入によって、例えば少し体重が増えて来たとか、食の多様性が広がったとかそういった所で目標に介入している所です。</p>
委員	<p>ありがとうございました。非常に苦しい答弁でした。主観的にとか、あるいは体重だけで見るのは元々遺伝的素因もありますし、親も痩せていたとか、若い時から細いとかでそれをチェックリストの中の2つか3つの項目でこのように決めるっていうのは先駆的にとてもいい事をしているのだけれど、根拠が甘い。(血清アルブミン検査)はそんなにお金がかからないのにどうして出来ないのだろうっていうのが県内の自治体でもよく言われているのですが、国保診療所等を持っている所では関連して取り組みを少しずつ始めていますし、フレイルの事が出てから年数もかなり経ちましたし、市の方の最期のご説明にもありましたように横断的にフレイルに関しては取り組んでおられるのでしたら、(血清アルブミン検査の導入に)試みてみてはどうかと思います。客観的に筋肉も作りながら運動もして、そして体力が落ちないようにするという、そのあたりの所がないと「食べていますか?」「はい、食べています」「3回食べていますか?」「はい、食べています」では(根拠が不十分)。「何を食べているか」は、まだ拠点事業に出ている人はある程度食べていると思いますが、ここに来ない人がどんな食をしているかとなると、(後期高齢者)健診とかの中に検査項目の中に1項目、同じ採血をするのなら(血清アルブミン検査を)調べるという事を、先駆的にされてもいいと期待を込めてです。</p> <p>もう1点は、地域ケア推進事業の報告があったと思うのですが、その中で個別のケアと地域のケアを統合しながらという風なお話がありましたよね。個別課題から地域課題を見出していくという事が書いてあったような気がします。ところがもう一方で、地域ケア会議とか民生委員との連携という、むしろ地域包括支援センターが気にしている事を地域課題として捉えているのですが、本当の地域課題というのは住民の</p>

	<p>方々にとって何が課題かという事をしっかりと調べた上でテーマとして取り上げ、そして包括支援センターを中心に多くの方々が連携して対策を講じていくという意味合いがありますよね。そのあたりにどう引き付けて行くか、とりあえず民生委員さんとの連携が出来ていない所にターゲットを当てて今回はされているのですが、ずっと地域包括支援センターの課題が地域課題ではないと思うので、そのあたりも是非前向きに検討されたらいいかなと感じました。その結果として住民が取り組む、いわゆる自助とか互助の世界と専門家の力と、行政の力がうまく合体した時に地域課題が解決していくという事だと思うので、是非そのあたりまた、対象者いわゆる住民の方々の課題、そこら辺、地域の特徴から引き出していくと更により良くなるかなと思います。</p> <p>(民生委員との連携は) もう3年間歩かれているので、今後フォローの形になって行くと思うので、次の所を是非また考えて頂けたらと希望します。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。</p>
委員	<p>消滅危機支援強化拠点という所がちょっと気になりまして。街場の方もあれば、山間部等の地域差があると思って。この中で高齢化、固定化といった課題があるのですが、その中でもそれぞれ違いがあるのかなというところで、教えていただけたらと思うのと、それから先程から民生委員さんの問題なのですが、前回の協議会で、(包括が地域の会に積極的に参加しはじめて) 民生委員さんが辞めなくなったっていうのが、皆さんの関りが実を結んでいる所っていうのもありましたので、そういった所でのエピソードなんかもお聞きしていると明るい未来が見えるのかなと思ったりして、お聞き出来たらと思います。</p>
事務局	<p>ご質問ありがとうございます。消滅危機支援拠点の抽出についてなんですけども、参加者の減少とか高齢化というのは、ここに挙げている拠点以外でも全拠点が感じているような内容で、今年の継続支援の内容であったり、交流会の内容であったりっていうのは「拠点を継続する為にどうすればいいのか」というのを参加者の方に考えていただく機会を多く持ってまいりました。ここに挙げているのが、圏域が重複している所もあるのですけれども、包括支援センターで毎年行っている名簿の調査等があるのですけれども、その中で年齢だったり介護保険の認定を受けている状態が分かったり、あとはお世話人さんたちが悩みを抱えているかどうか等聞き取りを行っていたり、参加者が増えているか調査をさせていただいているのですけれども、それを分析させて頂いたりとか、あとは健康長寿コーディネーターが各圏域担当しているのですけれども、そのコーディネーターの方から支援が必要ではないかといった提言があった拠点になります。一圏域につき一カ所程度という事で、毎年支援に入らせていただいて、今年はこのような拠点になっております。城主の方は参加者がかなり減ってきている、元々世帯数が少ないところもあるみたいなのですが、なかなか新しい人が入れないっていう事と、中郷の方も男性陣が中心になりながら頑張らせていただいているのですが、段々減ってきている。参加者の減少について悩みを抱えている所が多いの</p>

	<p>と、あと江口とかは参加者も減っているのだけど自分たちで呼びかけて頑張りますという事で、実際に支援には至っていません。篠場団地の方も一時より活気がなくなってきたなという事で消滅危機として挙げさせてはいただいたのですけれども、健康相談が出来る保健福祉 MaaS（マース）という車両があるのですけれども、それを利用して篠場団地の拠点で健康相談をさせていただいた時に、メディアの取材が入りましてそれをきっかけとして賑わいを取り戻したという事で、消滅危機ではなくなったという事で今年度の支援は行ってはいない状況です。</p>
事務局	<p>民生委員さんの件ですが、「やめにくくなった」というお話を前回までの委員だった民生員さんにお伺いしました。包括支援センターの事を知っていただける事で、相談がしやすくなって、少し気持ちが楽になって、辞める人が減ったとお伺いしました。やはり、地域の会に相談係、健康長寿コーディネーター、ランチがそれぞれ参加しているという事で、誰か一人でもその会に包括から参加する事で、相談専門の職員でなくてもだれか一人来てくれるだけでも地域の方々に安心していただけているようで、包括に相談が出来るという認識を持っていただけているなど感じています。</p>
委員	<p>ありがとうございました。他の市で宮内先生と地区診断とかを一緒にさせて頂いているのですけれども、同じ地域課題なのだけれども、背景はそれぞれ違うっていうのをすごく感じました。そこをきっかけにして掘り下げていけられたらいいかという所でした。ありがとうございました。</p>
事務局	<p>ありがとうございます。</p>
事務局	<p>続きまして、協議題（２）「令和６年度予算について」事務局より説明をお願いします。</p> <p>《協議題（２）について説明》</p>
事務局	<p>ただいま、事務局より「令和６年度予算について」説明いただきましたが、委員の方からご意見・ご質問はございませんか。</p> <p>《特になし》</p>
事務局	<p>続きまして、協議題（３）「新居浜市健康づくり推進本部フレイルグループの取組について」事務局より説明をお願いします。</p> <p>《協議題（３）について説明》</p>
事務局	<p>ただいま、事務局より「新居浜市健康づくり推進本部 フレイルグループの取組に</p>

	<p>ついて」説明いただきましたが、委員の方からご意見・ご質問はございませんか。</p> <p>《特になし》</p>
事務局	<p>続きまして、協議題（４）「その他」についてですが、委員の方から特に議題とする事項はありますか。</p>
委員	<p>お答えできる範囲で構わないのですが、包括支援センターが直営から委託になるといった話題が以前に何回か出ていたと思うのですが、その後どうなっているのでしょうか。</p>
事務局	<p>ちょっと今ここでご報告できる事はございません。</p>
委員	<p>わかりました。</p>
事務局	<p>最後に、次回の運営協議会の日程について調整したいと考えております。次回日程は令和6年度4月下旬から5月上旬の水曜日で考えております。現時点で、都合の悪い日がある委員さんはいらっしゃいますでしょうか。後日、知元会長と調整し、日程が決まり次第、委員の皆様にご連絡いたします。</p> <p>それでは、予定しておりました議題は、すべて終了いたしました。これをもちまして、本日の会議を終了いたします。本日は、ありがとうございました。</p>